

あたく組とは

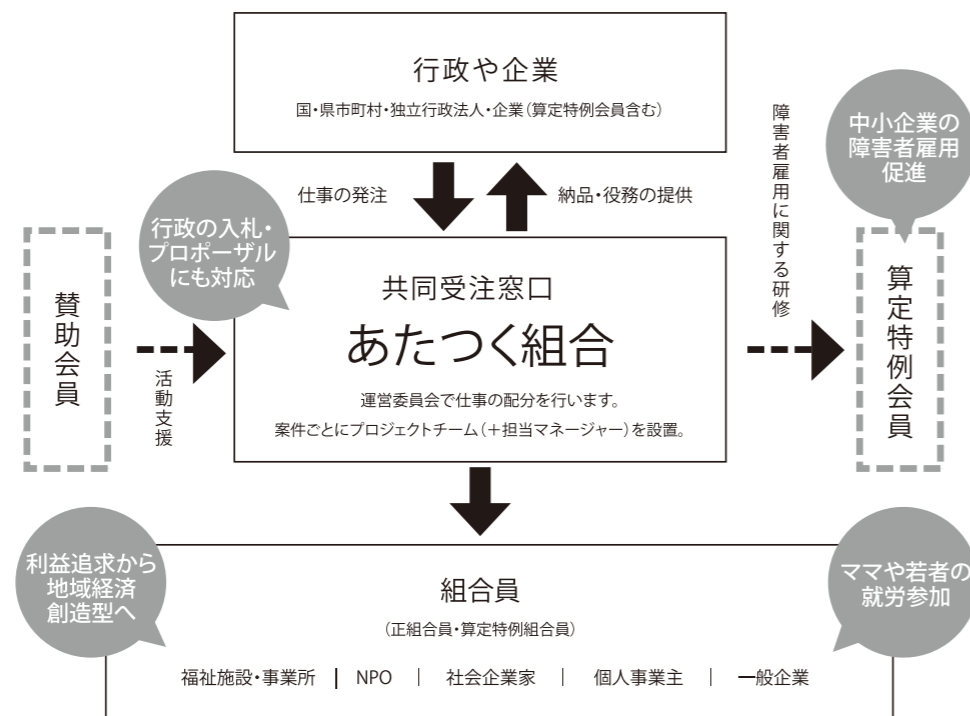
「はたらくことは、人らしく日々を生きるための大切な行いである(あたく組)」

あたく組は、福祉施設を核として企業・NPO等が参加する「福祉型事業協同組合」です。奈良県から正式に「共同受注窓口事業者」の認定を受け、障害者等が多様な仕事に従事できる「あたらしい・はたらくを・つくる」取り組みをしています。

「福祉型」に込めた思い 「あたらしい・はたらくを・つくる」とは

社会で私たちは、何らかの形で「はたらく(仕事をする)」行為を繰り返して生きています。「はたらく」とは、社会の中で自分の存在価値を確認できる大切な手段ではないでしょうか。あたく組は、障害のあるなしに関わらずすべての人が「生きがいを感じながら幸せに生きる社会をつくること」を目指して設立されました。

そのためには、ベースとなる考え方を「福祉」とすることで、相手を思いやり、理解する精神的な土壌が築かれ、いかなる人に対しても、安心で安全な社会をつくることができると信じています。私たちは勇気と希望を持って、今までにないはたらく方を創造し、今までにない誰もが幸せに生きる社会をつくっていきたくと考えています。



沿革

| | |
|--|--|
| <p>平成27年………</p> <ul style="list-style-type: none"> 10月 創立総会 12月 日本初、異業種で福祉型事業協同組合が発足 <p>平成28年………</p> <ul style="list-style-type: none"> 1月 8団体が参加したお披露目式を開催 6月 第1回通常総会を開催 9月 奈良県優先調達の共同受注窓口に認定 <p>平成29年………</p> <ul style="list-style-type: none"> 1月 春日大社境内の杉を社会福祉に活用する事業を開始 2月 Design @ Communities Award2017の大賞を受賞 一周年報告会を開催 | <ul style="list-style-type: none"> 3月 奈良県障害者雇用ビジネスモデル事業の報告 5月 第5期生駒市障害福祉計画策定支援業務を受注 5月 第2回総会を開催 8月 クラウドファンディングの返礼品を製作・発送開始 9月 平城京再生プロジェクトから協力要請 9月 生駒市広報誌デジタル化業務を受注 11月 奈良県の優先調達会議に参加 <p>平成30年………</p> <ul style="list-style-type: none"> 2月 Design @ Communities Award2017の事業報告会を開催 3月 GoodJobAward2017を受賞・報告会に参加 3月 県営平城宮跡歴史公園内物販コーナーに福祉施設制作商品を出品 4月 県営平城宮跡歴史公園の物販と飲食の建物の案内役にPepper2台を配置 4月 春日大社境内の杉で作った小品を奈良国立博物館に出品 5月 第3回総会を開催 |
|--|--|

あたく組の運営 スタイル

「人がしあわせに生きるために必要なことは、ごはんとおしゃべりである(あたく組)」

あたく組の目的

- ✔ 就労支援により、障がい者の「あたらしいはたらく場」をつくる
- ✔ 若者やママの仕事をつくる
- ✔ 中小企業の障害者雇用を応援する
- ✔ 多様な企業が連携した「共同体」を構築する

あたく組の活動内容

1. 奈良の文化を継承する事業を推進します
2. IT系企業連携による行政等のHPを受注します
3. 奈良の地場産業を新たな視点で活性化します
4. 優先調達制度の受注で企業連携とはたらく場を開設します
5. コワーキングスペースで共同型の経営を支援します
6. セミナーや交流会で奈良の課題を解決します

あたく組の核「運営委員会」

あたく組では「運営委員会」を組織し、日々の業務に対応しています。

運営委員会制度

異業種の共同体であるあたく組には、様々な特徴を持った団体や個人が参加しています。その強みを活かすべく、毎週月曜日の午前中に「運営委員会」を開催し、組合員が一同に会する機会を設けています。

ここでは、事業の意義や目的など情報の共有に止まらず、事業の進め方や新規プロジェクトについての検討、広報や助成金等について意見を出し合うなど、「運営委員会」が組合の運営を担う心臓部になっています。



運営委員会の特徴

| | | |
|---|---|---|
| <p>偶然性 [un expected] 偶然を意図的に生み出す</p> | <p>親交性 [un efficiency] 頻繁に顔をあわせる</p> | <p>柔軟性 [un ferme] 型にしばられない</p> |
|---|---|---|